



内子座 藝於遊



補強用ポリカーボネート板

令和 8 年 7 月 12 日、製作された壁補強用ポリカーボネート板の検収のタイミングにあわせ、製作現場などを視察させていただきました。場所はなんと山形市です!!

これまでのかわら版にも、“内子座ではポリカーボネート材による壁面補強を実施する”とご紹介していましたが、改めて整理すると、今回の内子座保存修理工事では、内子座内部の空間を損なわないように耐震補強工事を行うこととしており、そのため、壁面を利用して補強を行うことを検討しました。壁面補強をするにあたり、通常の構造用合板では強度が不足するため、近年開発されたポリカーボネート材による補強板を採用することになったのです。ちなみに、垂直方向は壁面で補強し、水平面での補強は 2 階床下や屋根面を利用して行うこととしています。

ポリカーボネート板は、国宝のあるお寺で保存修理工事をするにあたり初めて採用されたもので、これまでに 5 つの導入事例があるとのこと。まだまだ新しい技術ですが、鉄骨での補強が難しかった内子座では救世主のごとく現れた工法で、工事関係者が理解を深めながら取付にあたる準備をしています。



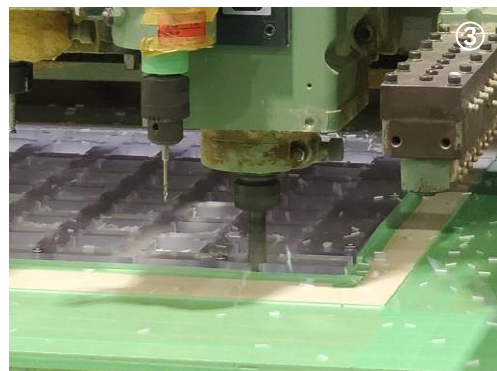
補強用ポリカーボネート板検収の様子(7月13日撮影)



①



②



③



④

①ポリカーボネート板が旋盤加工用の機械に設置されます。②及び③は樹脂用の刃物によって板が削られていく様子です。場所によって刃物を変えて削っていきます。5 種類の刃が使われます。④完成したばかりの板。1 枚の板を完成させるのに約 1 時間かかります



⑤

⑤板をアップして撮影したもの。削り取られた穴の大きさは約 5 cm 角で、四角が丸みを帯びた特許技術のこの形がミソとのこと。内子座を守ってくれる約 350 枚の板が、目下山形の地で製作されています。